

海辺のビンゴ 漂着物プチ解説

①タカラガイ

巻貝の仲間。ウズの部分は殻の内側にある。

昔、中国でお金として使われていたものも！（キイロタカラガイという種類）
日本には88種のタカラガイが生息。その中の51種類が南房総に生息。

②海綿(スポンジのようなもの)

熱帯の海を中心に生息している。形は様々。

細かい網目状の骨格は、スポンジとして化粧用にも使われる。

③ビーチグラス

シーグラスとも呼ばれる。波に揉まれて角が取れる。色は元々のガラスの色。
透明・青・緑・茶が多いが、まれに赤や黒色のものも。ペットボトルに押され、
ビンが昔より使われなくなり、ビーチグラスが少なくなっている。

④石

川の石は転がりながら運ばれるので全体に角が取れて丸い形になるが、濱では
波によって砂の上を水平に動かされるので平たい形にすり減っていく。

⑤赤い貝

⑥オオヘビガイ

巻貝の仲間だが、きちんと巻かない巻貝。一つとして同じ形はない。巻貝にし
ては珍しく、岩や石にへばりついている。上手に吹けば笛になる。

⑦黒っぽい貝

⑧ウニの殻

トゲが取れ、内臓もぜんぶなくなったウニ。ウニの種類によって殻の大きさや
形が違う。草食性で海藻などを食べる。

⑨小さい貝

⑩この砂浜で拾えるもの

⑪大きい貝

⑫とんがった貝

⑬人間が捨てたもの

海岸で記録されたゴミの個数ワースト5

1位：発泡スチロール破片(1cm以上) 2位硬質プラスチック破片 3位：
発泡スチロール破片(1cm未満) 4位タバコの吸殻 5位プラスチックシート
や袋の破片

雨は集まって川になり、私たちが住む町を通り、海に流れていく。ポイ捨てしたゴミは、水によって集められ、海に流れ出す。ゴミは海にたまっていく。

⑭サンゴ

黒潮と親潮の交わる南房総の海には、なんとサンゴが生息している。館山の沖ノ島近辺がサンゴの北限域。

⑮木の実

海岸では多くの木の実を見つけることができる。丈夫な殻を持った実やドングリのような硬い実が多く、果肉が多い液果(ウメ、モモ等)は少ない。液果の場合、中の種子の外側にある核だけが漂着することが多い。

⑯流木

かつては薪として利用される大切な資源だった。多くの川にダムが作られた影響で、最近では大きな流木が見つかりにくくなっている。